フラッシュ・ガール

A 'SUPER' Story by Confused Ed

ナレーション「東部標準時間３時半……彼女がやってくる時間だ。そう！　みんなの大好きなスーパーヒロイン……フラッシュ・ガール！　そう、フラッシュ・ガールだ。昼間の彼女は、物静かな図書館員のアリス・クランバブル。しかし、夜の帳が降りたときから、彼女はラバーコスチュームに身を包み、常人の二十倍のスピードで動くという能力を発揮して、犯罪者や悪人どもと戦うのだ！　さあ、今回はどんな冒険が待ちうけているのか？」

１）屋根の上。

フラッシュガール、双眼鏡で下を見下ろしている。フラッシュ・ガールは２５歳。身長１６０センチ、体重４６キロ。青い目。柔らかな赤毛が方に垂れている。９２センチのバストが、ぴったりしたスーツからはみだしそうに盛り上がっている。脚はすらりと長く、先端のとがったブーツが膝まで被っている。

フラッシュ・ガール、溜息をつく。

ナレーション「彼女は退屈していた。今夜はなんの事件も起こっていないのだ。昼間、彼女は、ミセス・クランバブルとして静かな図書館で、退屈な時間を過ごした。せめて夜は刺激的であってほしい。そんな彼女の望みははたして叶うのだろうか」

突然、近くの路地で物音。フラッシュ・ガール、頭をさげて音がした方向を見、屋根から屋根へと飛び移る。彼女は1秒間に１００メートル近くを移動できるため、普通のひとには赤い影がさっと通り過ぎたようにしか見えない。

フラッシュ・ガール、音がした路地を見下ろす。突然、別の衝突音と赤子の泣き声が響く。フラッシュ・ガール、すぐにその音のなった方に移動し、路地に飛び降りる。

思わず叫びそうになる。一匹のグレイハウンドが、路地に横たわる赤ん坊にかみついていた！

フラッシュ・ガール、すぐにグレイハウンドにタックルしようとして、すぐに立ち止まる。犬がかみついていたのはベイビー・ブープシーのお人形だった！

フラッシュ・ガール「ベイビー・ブープシーか。懐かしいな、むかし持ってたのよね……。これをつくっていた会社は去年倒産したけど……なんてったっけな……、あ、デイリー・ドーリーだ」

笑い出す。犬はなにごともなかったかのように、お人形をくわえている。フラッシュ・ガール、安堵の溜息をつき、近くの壁にもたれる。

フラッシュ・ガール「落ち着いた生活を送りたい……。こんな力がなかったら、もっと平穏な人生を送れたはずなのに」

目を閉じる。

2）回想シーン。

フラッシュ・ガールが大学のキャンパスを横切り、実験室へと向かっている。

ナレーション「三年前、フラッシュ・ガール――いや、当時はミス・アリス・クランバブルは、ボーイフレンドのリックを手伝っていた。その実験とは、一種のリンパ液を植物に注入することで、成長の速度を速めるというものだ。先週行ったいくつかのテストの結果、リンパ液に別の要素を混ぜることによって、彼らは実験成功への確信を得たのである」

アリスが実験室に入る。とたんに立ちつくす。室内にはリックの他にもう一人の女性リジー・ネロキングがいた、リックは、ズボンを脱ごうとしていた。

アリス「あんたたち、ここでなにやってんの？？？」

アリス、目に涙をためて叫ぶ。リック、両手を拡げてアリスに歩み寄り、抱きかかえようとする。

リック「ハニー、違うんだ、これはね……」

アリス、後ろに飛びのき、脚を跳ね上げてリックの睾丸を蹴り上げる。リック、一瞬ショックで立ちつくすが、やがて床にくずおれ、両手で股間を押さえて悲痛なうめき声をもらす。

アリス、怒りが収まらないまま、リックの両手を払いのけ、睾丸をつかんでひねりあげる。リック、甲高い声で泣き叫ぶ。

リック「や、やめてーー！　つ、潰れるーー！！」

アリス「潰してやる！　こんな金玉、使えなくしてやる！」

アリス、全身の力をこめてひねりあげる。
突然、首筋に鋭い痛みを感じる。片手で首筋を撫でる。血がついている。
アリス、顔を上げる。リズがおびえて突っ立っている。床にわれたガラス瓶が転がっている。
アリス「こ、こ、これは……」
アリス、失神する。
ナレーション「そう！　彼女は、成長促進液をもろに浴びてしまったのだ！」
アリス、意識を取り戻す。リックもリズもいない。
ナレーション「彼女が、自分の身に起きた異変に気づくのに、時間はかからなかった」
アリス、窓から外を見る。キャンパスの遙か彼方、リズに支えられ、腰をかがめていた雑煮歩くリックがいる。
アリス「……野郎！」
アリス、二階の窓から飛び降り、凄まじいスピードでリックとリズに駆け寄る。途中、自分が他の人間の二十倍の速さで移動しているのに自分で驚く。
アリス「う、うそ！」
アリス、目を丸くして狼狽しているリックとリズを前にして、自分で呆然としている。
リック「なあ、アリス。誤解だって……。俺も怒ってないからさ、機嫌直してくれよ」
アリス「いやぁぁぁぁぁ！！！！」

アリス、リックに突進し、股間を膝蹴り。勢い余ってそのまま数十メートル、リックを蹴り上げた姿勢のまま移動。そのままキャンパスの噴水に飛び込んでしまう。
アリス、水中から顔をあげる。
アリス「わ……私、どうなっちゃったの？！」
アリスの背後に、失神したリックが浮いている。
ナレーション「そう！　実験室で浴びた成長促進液によって、彼女は変わったのだ！」
場面は変わってアリスの部屋。アリス、ラバースーツを縫っている。
ナレーション「彼女は、そのスーパーパワーを世の中のために役立てようと決意した。ここにスーパーヒロインが誕生した！」
夜の闇にポーズをとるフラッシュ・ガール。
ナレーション「正義と真実のために戦う戦士、フラッシュ・ガール！」

3）回想シーンが終わる。

フラッシュ・ガール、物思いを中断し、まだお人形をかじっているグレイハウンドに目をやる。お人形のお腹が裂けて何かが覗いている。フラッシュ・ガール、お人形を拾い上げる。そのお腹には紙幣が詰め込まれている。
フラッシュ・ガール「お金だわ……（数える）２０００ドルもある！」

周囲を見回す。人影はない。ふと、もう一度、紙幣を見返す。
フラッシュ・ガール「全部同じナンバーだわ……つまり……偽札！　まさか、」
走り出す。
ナレーション「子どもたちに愛されるお人形をつくっていた会社が、なんと偽札を作っていたとは！　フラッシュ・ガールはすぐにデイリー・ドーリー社へと向かった。デイリー・ドーリー社までは1マイル。だが、彼女にとっては目と鼻の先。急げ、フラッシュ・ガール！　偽造団を叩きつぶすのだ！」

4）デイリー・ドーリー社。

荒れ果てた人気のない通りに建つふるぼけた工場。フラッシュ・ガール、足音を忍ばせゆっくりと建物に近づき、窓から内部を覗き込む。武装した南米系のならず者が四人、ベイビー・ブープシーの人形に偽札を詰め込んでいる。
フラッシュ・ガール「私のベイビー・ブープシーちゃんを悪いことに使うなんて許せない……見ておれ！」
暗闇のなかで彼女はいったん背後に飛び下がり、窓ガラスめがけてジャンプ。ガラスを突き破って内部に転がり込み、四人の悪党どもの2メートル手前にすっくと立ち上がる。
フラッシュ・ガール「はあい。お人形遊びするお年頃でもなさそうね、あんたたち」

ならず者1（ヒスパニックの訛で）「あ、て、て、てめえは……」
ならず者2「どうした？」
ならず者1「ふ、フラッシュ・ガールだ！」
ならず者1、拳銃を引き抜こうとする。
フラッシュ・ガール「あら、知ってたのね」
フラッシュ・ガール、ならず者1に接近し、股間を蹴り上げる。凄まじいスピードで繰り返し蹴り上げる。ならず者が股間を両手でかばう動きはまるでスローモーションのようだ。ならず者、白目を剥いてくずおれ、痙攣する。
フラッシュ・ガール「痛かった？　あとで氷で冷やすといいよ。潰れてなければの話だけどね」
ならず者たち、いっせいに拳銃を引き抜くが、フラッシュ・ガール、素早い動きで男たちの手首を次々と蹴り上げ、空中に舞い上がった三丁の拳銃を見事にキャッチする。
フラッシュ・ガール「（キャッチした拳銃を見せびらかしながら）お人形遊びするようなお子ちゃまが、こんなもの振り回すんじゃないの！」
フラッシュ・ガール、拳銃を片隅に放り出す。
フラッシュ・ガール「おとなしく降参しなさい。それとも、こいつみたいに玉を潰されたいの？」
ならず者2（小男）「ううう……女のくせに、ほざくんじゃねえ！」
ならず者2、奇声をあげて飛びかかり、回し蹴りを浴びせる。フラッシュ・ガール軽く蹴りを

かわす。ならず者2、今度は顔面にフェイントでパンチを浴びせ、脇腹を蹴ろうとするが、これもかわされ逆に背中にキックを浴びる。
フラッシュ・ガール「(嘲笑して) まだやる気?」
ならず者2、奇声をあげて飛びかかってくる。フラッシュ・ガール、ならず者の睾丸を鷲掴みにして凄いスピードで掴んだり離したりを繰り返す。ならず者2、体を折り曲げ、呻き、叫び、やがて血反吐をはいて失神する。
フラッシュ・ガール「二丁上がり、っと。あ、四丁かな? (残る二人に向かって) どうする? 降参する? それともこいつらみたいに去勢されたい?」
ならず者3 (大男)、床に転がる鉄パイプを拾い上げ、野球のバットのように構え、フラッシュガールに向かって突進、頭に鉄パイプを振り下ろす。フラッシュ・ガール、すばやくならず者3の背後に回る。ならず者3、慌てて振り向くと、フラッシュ・ガールは微笑んでウィンクする。
フラッシュ・ガール「ワン・ストライク!」
ならず者3「うがあああああ!」
ならず者3、もう一度鉄パイプを振り回すが、フラッシュ・ガール、再び男の背後に回り込む。
フラッシュ・ガール「ツーナッシング! ちょっとワンパターンすぎない?」
ならず者3、また鉄パイプを振り回す。フラッシュ・ガール、男の背後に回り込み、その際に

鉄パイプを奪い、背後から股間を突き上げる。グシャッと大きな音が響き、ならず者3、白目をむき血反吐をはいて倒れる。
フラッシュ・ガール「ストライクアウト! さて、これでスリーアウトチェンジね。三人ともこれでソプラノで喋るようになるわ。刑務所でカマ掘られないように気をつけないと。あら?」
ならず者4、ナイフを構えて睨みつけている。
フラッシュ・ガール「あなたもこいつらの仲間入りしたいわけ?」
ならず者4、三人を見やり、ナイフを放り出し、悔しそうに両手を上げる。
フラッシュ・ガール「女の子に降参するのがそんなに悔しいの? いいじゃない、おかげで玉が潰れずにすむんだから」
フラッシュ・ガール、ロープを取り出し、三人の男を縛り上げる。ならず者4、いきなりナイフを拾って背後から斬りつける。フラッシュ・ガール、すばやくかわし、凄いスピードでならず者4のズボンを脱がせ、陰嚢の根っこをロープで縛り、天井にロープを放り投げ、引っ張る。ならず者4、睾丸を縛られて天井から吊された形になり絶叫。フラッシュ・ガール、男の睾丸をつかむ。
フラッシュ・ガール「そんなに潰されたいんだ? お望み通りにしてあげる」
ならず者4のナイフで陰嚢を切断する。ならず者4、どさりと床に落ち、血まみれの股間を押さえて悶絶。フラッシュ・ガール、床に落ちたむき身の睾丸を踏み潰す。

フラッシュ・ガール「男ってほんとに馬鹿だよね」
突然、ドアが開く。

ＣＭ

5）前の場面の続き

黒いレザーのトレンチコートを着た筋骨隆々の大男が現れる。右手に鉄の爪をはめている。
フラッシュ・ガール「スティール・クロウね」
スティール・クロウ「フラッシュ・ガールか。久しぶりだね」
フラッシュ・ガール「闇の世界の帝王のお出ましとはね。偽札作りの黒幕はあんただったんだ」
スティール・クロウ「ふむ」
フラッシュ・ガール「デイリー・ドーリー社を倒産に追い込んだのも、あなたなの？」
スティール・クロウ「（微笑）」
フラッシュ・ガール「許せない……、私のベイビー・ブープシーを。あんたの金玉も潰してやる！」
フラッシュ・ガール、凄いスピードでスティール・クロウに接近、みぞおちにパンチをくれようとして、かわされ、逆に首を抱え込まれ締め付けら、持ち上げられる。

スティール・クロウ「私のことを分かってないようだな、フラッシュ・ガール。」
フラッシュ・ガール、空中に浮いたまま、踵を後ろにはねあげ、股間を蹴る。だが、スティール・クロウは動じず、笑っている。フラッシュ・ガール、信じられないという表情でもう一度、蹴る。スティール・クロウ、やはり笑っている。
スティール・クロウ「私が、君の手口を知らないとでも思ってるのかね。あいにくだが、股間にはプラチナの金カップを装着している。君の猛スピードの金蹴りも跳ね返せる硬度をもった特注品だよ」
スティール・クロウ、フラッシュ・ガールをきつく締め上げる。フラッシュ・ガール、苦しみながらも、チャンスを待つ。
スティール・クロウ「死ね！　フラッシュ・ガール！」
フラッシュ・ガール、後頭部を敵の額に打ち付ける。スティール・クロウ、怯み、フラッシュ・ガールを離す。
フラッシュ・ガール、立ち上がり、猛スピードでスティール・クロウの周囲を走り回る。スティール・クロウ、目を回しそうになりながら、拳を突き出す。パンチがフラッシュ・ガールの肋骨に炸裂。フラッシュ・ガール、後ろによろめく。
スティール・クロウ「小娘が！　殺してやる！」
フラッシュ・ガール「（微笑みながら）無理よ。何かなくしてない？」

フラッシュ・ガール、何かをスティール・クロウに投げてよこす。スティール・クロウ、それをキャッチし、狼狽する。それは、プラチナの金カップだった！

スティール・クロウ「いつの間に！」

フラッシュ・ガール、スティール・クロウの股間を蹴り上げる。

レントゲン映像が挿入される。スティール・クロウの睾丸が、フラッシュ・ガールの爪先と、彼の腰骨に挟まれ、潰れる。

スティール・クロウ、血反吐をはいて倒れる。

フラッシュ・ガール「一撃で潰れるとは運がいいわね。一瞬の痛みですむんだもの。もっとも、目が覚めた後は地獄よ。（携帯電話を取り出し）もしもし、警察？」

6）同じ場所、数分後。

警官隊が工場に踏み込む。すでにフラッシュ・ガールの姿はない。五人の男たちは後ろ手に縛られ、転がっている。スティール・クロウはうつぶせになっており、コートの背中に「ＦＧ」の文字。

警官１「フラッシュ・ガールだ！　また彼女に手柄をさらわれたな」

警官２「（スティール・クロウを仰向けにし）スティール・クロウだな」

警官１「この町の犯罪組織のボスだ。これで街は平和になるな」

警官２「そのかわり、警察の面目丸潰れだ」

警官１「玉を潰されるよりはいいさ」

警官たち、笑う。

ナレーション「そう、どんな悪人もフラッシュ・ガールからは逃げられない。この街で犯罪を犯そうとする輩は覚悟したほうがいい。君の男の象徴はスクランブルド・エッグみたいになるのは確実なのだから。さ、チャンネルはそのまま、次回を待て！」

エンディング・クレジット

悪人たちの股間を次々と蹴り上げるフラッシュ・ガールの映像を背景に、キャストの名前が出る。